

1 日時場所 令和5年10月30日（月）9時30分開会
南魚沼市民会館 会議室研修室

2 出席者

委員：岡村秀康教育長、西野仁委員、角谷正雄委員、須藤文子委員、川島亜紀子委員

事務局：片桐教育部長、西潟社会教育課長、小林図書センター長、小島管理指導主事、南雲管理指導主事、種村教育相談指導主事、中村指導主事、青木学校庶務主幹、山田施設主幹、林学校指導係長、富井子ども・若者相談支援係長

3 議題

日程第1 **会議録署名委員の指名について**
角谷正雄委員、須藤文子委員

日程第2 **教育長及び事務局諸報告**

(教育長) (日程2 ページ、教育長及び事務局諸報告のとおり)

(当日配布資料の全国学力調査の結果(市報掲載版)について説明)

(須藤委員) 後山小学校、栃窪小学校の特認校懇談会について、参加した保護者の様子等を聞かせてもらいたい。

(小島管理) 後山小学校の懇談会は3組の親子が参加しており、校長等の説明を聞き、就学を前向きに考えている様子であった。

(教育部長) 栃窪小学校の懇談会では、1組の親子の参加があった。また、栃窪小学校を卒業した中学生の生徒から、栃窪小学校での学校生活についての発表があった。

(角谷委員) 学区再編等検討委員会の様子はどんな感じであったか。

(教育部長) 学校の適正規模と適正配置について、中間まとめの案を提示し、意見を出してもらったところである。その意見をもとに修正し、11月に開催する検討委員会で再協議する予定としている。検討委員会で中間まとめが出来たら、教育委員会で報告する。

(西野委員) 学力調査結果に関しては、教育委員会としてどう取り組んでいこうとしているのかが見えない。どうやったら解決できるのか、懇談会での話し合いだけでは柔らかすぎる。どのようにしてこの状況を解決するのか、戦略を考える会議が必要なのではないかと思っている。グラフについては、差についてもっと強調した見せ方をした方がいいのではないか。

(角谷委員) きちんと伝えるべきことは、伝えないといけない。保護者向けにもっと細かく作成し、どの部分が悪いのかということ伝えることが必要。学年×10分という目安ではなく、具体的なロードマップを市全体として家庭に伝わるように考えていくといいのではないか。その方が家庭も協力しやすいのではないかと思う。子ども自身も何をやったらいいかわからなくなっていると思うので、プログラムを1種類ずつくらい作ってあげると底上げになるのではないだろうか。

(川島委員) 先生方と教育委員会では、数字の見方に温度差を感じた。先生方は現場の生徒を見ているので、この数字でも仕方ないと感じているようだが、もう少しこの数字を重く受け止めてもらいたい。学校全体で変えていかなければ、数字は上がらないのではないかと感じている。市報については、保護者も大変だと感じているとは思いますが、家庭ではどうしたらいいのかわからないのではないかと。市の取組として読む力の育成と書いてあるが、読む力がどうつながるかが見えづらい部分もある。家庭で、どういうことに気をつけて取り組んでいけば少しでも改善していくのか、もう少し得るものがある

るといいのではないかと感じた。また生徒一人一人が、結果をきちんと読み込む必要があると思う。市報を見ての保護者からの意見が少ない。地域の方からの意見等はあったが、保護者の方からの意見が少なく、市報を見ているのかという疑問を感じた。伝える手段について、他のツールを使うのもいいのではないか。

(須藤委員) 市報への結果掲載については、市民へのお知らせにはなるが、これくらいならという甘い考えをもたれるのではないか。教育委員会、教員、保護者、子ども達の認識の違いがある。もっと具体的に周知するべきではないか。現在は、保護者面談では学力調査の結果について詳しく話す時間がないようだが、時間をとって具体的に話をした方がいいのではないか。この市報だけで終わるのではなく、次々に手を打っていつてもらいたい。

(教育長) 校長との懇談会を行っているが、その中で温度差は感じている。学校の意識を変えるには、リーダーの意識を変えていかなければいけないと考えている。今まで保護者や児童生徒への直接アプローチは教育委員会としてやってこなかったが、大事な視点なので、今後考えていく。

(角谷委員) 具体的に何をするのか、目標をどこに置くのが大事だと感じている。南魚沼市教育委員会として目標を1つ作り、達成するには何をすればいいのか、具体的に考えていけば学力は上がる可能性があるのではないか。

日程第3 管理指導主事等からの報告

(南雲管理) 現在、中学校合唱コンクールが開催されている。文部科学省から、COCOLOプランについての文書が発出された。このプランでは、学校には来れるが学級に入りづらい児童生徒が、別の場所で、自分のペースで学習に取り組めるような場所を作ることなどを促進している。今回発出された文書では、プランの前倒しが依頼されていた。南魚沼市では、中学校には別室が既にあり、そこで学習している子どもたちを、空き時間の先生方が交代で指導している。小学校においては、現在そういった部屋はないが、不登校児童のサポートをするためにも、校長会等を通じてお願いをしていく。また、1人1台端末を活用したアプリ等による心の健康観察の推進も前倒しで通知されている。南魚沼市においては、小学校ではスクールライフノートの心の天気を活用し、中学校ではロイロノートを活用している。

(小島管理) インフルエンザについては、市内でも多くの児童生徒が感染している状況である。現在、小学校1学校2学年、中学校1学校1学級が休業となっている。コロナ同様に、感染対策に努めている。学習発表会が行われているが、平日開催の学校も出てきている。浦佐小学校、城内小学校で150周年の記念式典が終了した。11月3日には大崎小学校で150周年記念式典が行われる。

(種村主事) 子どもたちが自信を持つことができるように、教育相談を進めていきたい。

(中村主事) 計画訪問で学校への訪問機会が多くなっている。県から、全国学力学習状況調査の状況について、指標が示されている。その中に、分析ということがとても強く出されていた。学校訪問を行った際に、NRTの各専門の分析結果、全国学力調査の分析も含めて、過去にどのような分析を行っていたのかを、ヒアリングをしながら指導している。学校では学力向上に向け、読む力の育成を軸とした授業改善や1回目のWEB-QUの分析結果による児童生徒への支援と指導を行っている。

(角谷委員) 新潟県では、子ども条例を作る会議が行われている。その会議では、子どもを社会全体で育てるということにこだわり過ぎていて、保護者の重要性が薄れていると感じたため、保護者には子どもの第一義的な責任があるということ、条文に書き込むように求めた。不登校についても、悪いことじゃないという議論が出ていた。不登校が

増えているという中で、しょうがないんだという発想でいくのか、学校に戻すという形を考えるのか、少し考えていかなければと思った。

(南雲管理) 角谷委員が話した不登校の捉え方については、平成29年3月に教育の機会確保法が制定され、その八つの理念の中に「不登校は問題行動ではありません」と書かれている。そこから話が出てきたのではないかと考えている。また、「学校に行くことを目標にしなくていい」、「社会的自立をして、主体的に自分の人生を切り開くことが大事」というようなことが書いてある。校長会でも教育の機会確保法について話しをしている。学校に登校することを目標とすることと、その子の実態に応じてどういうやり方が一番適切なのかということ、教育相談担当指導主事、管理指導主事も含めて、学校とケース会議をしながら個々に決めていくことが大事だと考えている。

(種村主事) 全ての子どもたちが、学校がベストな場所であるとは限らないと考えている。家庭環境も大事だが、ベストかどうか分からない家庭もある。一人一人が背中を押してくれる環境の中で育つということを、最大限考えなければならない。それが義務教育の間は、学校であり、家庭であるということが可能となるように、家庭を支えていくような社会、公共社会生活が広がっていくといいと考えている。

日程第4 第33号議案 令和5年度南魚沼市学齢児童生徒の就学援助認定の可否について(9月申請分)(資料は当日配付回収)

(庶務主幹) (当日配付資料説明)

質疑なし

日程第5 第34号議案 令和5年度特別支援教育就学奨励費の支弁区分の決定について(資料は当日配付回収)

(庶務主幹) (当日配付資料説明)

質疑なし

日程第6 その他

(1) 子ども・若者相談支援センターの相談等状況について(9月分)

(子ども・若者相談支援係長) (日程5ページ、9月分相談等状況について資料説明)

(川島委員) 子ども支援の体験活動について、講師への謝礼は用意しているか。

(子ども・若者相談支援係長) 謝礼と費用弁償を用意している。

(川島委員) 活動場所までの移動手段は。

(子ども・若者相談支援係長) センターまで来てもらい、公用車にて会場まで行っている。人数が多いときは、市のバスを利用している。会場までの途中で家があり、家庭での送迎が困難な場合は、家から乗車している。

(2) 家庭教育支援事業実施状況(9月分)

(社教課長) (日程7ページ、9月分家庭教育支援事業実施状況について資料説明)

(須藤委員) 休み明けとはいえ、1つの学校で昨年度より300人増えたということに驚いている。心身の不安が主な内容か。

(社教課長) 学校生活の不安からという話を聞いている。

(須藤委員) 学年の内訳は。

(社教課長) 低学年が多い。

(須藤委員) 担任等へは話が行っているのか。

(社教課長) 内容によっては、担任や関係機関へ連携していると聞いている。

(川島委員) 六日町小学校のだんぼの部屋に関しては、今回500人弱ということであるが、ス

スタッフたちの対応がとても大変になるのではないかと。1日何人のスタッフが対応しているのか。

(社教課長) 六日町小学校のスタッフは3人いるが、通常1人で対応している。特段大変だという話は上がってこない。

(川島委員) 1人では大変だと思う。利用する子ども等の人数が多くなっているのであれば、スタッフの人数を検討してもらいたい。

(西野委員) だんぼの部屋は、いい空間が出来ていると感じている。夏休み明けが増えるということだが、夏休み中のプログラムは何かやっているのか。

(社教課長) 特段やってはいない。

(西野委員) 何か考えは持っているか。

(社教課長) 今のところは考えていないが、支援員と検討していきたい。

(子ども・若者相談支援係長) 夏休み期間のプログラムはないが、子どもたちが自分で宿題をしたい、自由研究の何かをつくりたいなど、目的を持って来所するのであれば、支援員が手伝っている。

(川島委員) 学童保育を利用している子どもが多いのではないかと。また暑い日が続く学校でのプール開放等もなく、家にこもっている子どもも多いと思うので、社会教育分野での活動が何かあると幅が広がるのではないかと。

(社教課長) 夏休みだと平日開催もできるので、検討していきたい。

(3) 学校・地域の連携促進事業実施状況(9月分)

(庶務主幹) (日程8ページ、9月分学校・地域の連携促進事業実施状況について資料説明)

質疑なし

(4) その他

(教育長) 今後の日程について、次回教育委員会は11月29日(水)午前9時30分から市民会館で行う。第11回教育委員会は、12月22日(金)午後3時から市民会館で行う。以上をもって、第9回教育委員会を閉会とする。

11時25分閉議閉会